



患者さんに優しい 呼吸器診療

患者さんに優しい医療をめざし、常に最新・最良の医療を行うよう努力している。呼吸器疾患は多岐にわたるが、当科では間質性肺疾患、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、喘息・慢性咳嗽、睡眠時無呼吸・呼吸不全、呼吸器感染症、肺腫瘍のそれぞれの臨床・研究グループを設け、各分野におけるスペシャリストを育成し、外来・入院診療や院内外のコンサルテーションにおける多様な要求に対応できる体制をとっている。COPD、慢性咳嗽、間質性肺疾患、睡眠時無呼吸などの専門外来は国内において大変希少であり、さらに画像や呼吸機能など疾患横断的な領域についても、スペシャリストによる複眼的評価を行っている。高い専門性を保ちながら、総合的、全人的に診断・治療を行うことで、質の高い診療の提供をめざすとともに、新規治療法の開発などより良い医療に向けての研鑽に努めている。

代表的診療対象疾患

COPD、気管支喘息、慢性咳嗽、間質性肺疾患、サルコイドーシス、肺結核、肺非結核性抗酸菌症、肺炎、呼吸不全*、睡眠時無呼吸症候群*、肺がん**
(呼吸管理・睡眠制御学講座*、外来がん診療部**と連携して診療)

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

高度かつ専門的な外来を設け、幅広い呼吸器疾患に対応できる体制を整えている。禁煙外来も行い、難治例への禁煙治療法の確立に力を注いでいる。外来受診者数は、延べ43,284人と増加しており、内科系診療科の中でも多い。

入院診療体制と実績

病床は、積貞棟4・5階と北病棟1階に計63床[うち結核病床(北病棟1階)15、呼吸管理・睡眠制御学講座(積貞棟4階)4]である。1年間の入院患者数も延べ18,128人と当院の内科系で2番目に多い。種々の合併症をもつ患者さんが多いなか、平均在院日数は11.9日を維持している。他部門との連携体制も確立しており、呼吸管理・睡眠制御学講座、リハビリテーション科、ICTとの連携を含め、がんセンターと連携して肺がんの集学的治療を行い、呼吸器外科と連携して肺移植目的での紹介例

の評価、治療も行っている。また、地域の医療施設とも病連携、病診連携を推進している。いずれの疾患領域においても、専門的知識を要する難治例を積極的に受け入れ、診療にあたるとともに、ガイドライン作成や厚生労働省事業の調査研究、多施設共同臨床研究などに携わり、本邦の呼吸器疾患診療の進展に貢献している。



臨床研究・地域医療への取り組み

多様な臨床研究を展開

◎[COPD患者を対象としたKRP-AB1102Fの配合意義試験(第Ⅲ相)]
[コントロール不十分な喘息患者を対象としたLebrikizumab第三相偽薬対照二重盲検比較試験][非小細胞肺癌(非扁平上皮癌)に対するペメトレキセド/カルボプラチン併用療法の第Ⅱ相試験(49例)][リンパ脈管筋腫症に対するシロリムスの長期投与に関する多施設共同臨床試験] 他多数

◎2014年2月、日本医師会生涯教育講座(長野市医師会共催)
“COPDの病態と診断・治療～理論と1346名の臨床経験からのアプローチ”、2014年3月、KRCCM seminar(熊本県医師会・熊本大学後援)“喘息の病態理解を目指して:血清ペリオスチン測定からわかったこと” 他多数